

RESAS 地域経済分析システムを活用した 瀬戸内市商工会管内経済動向分析報告書

令和3年12月

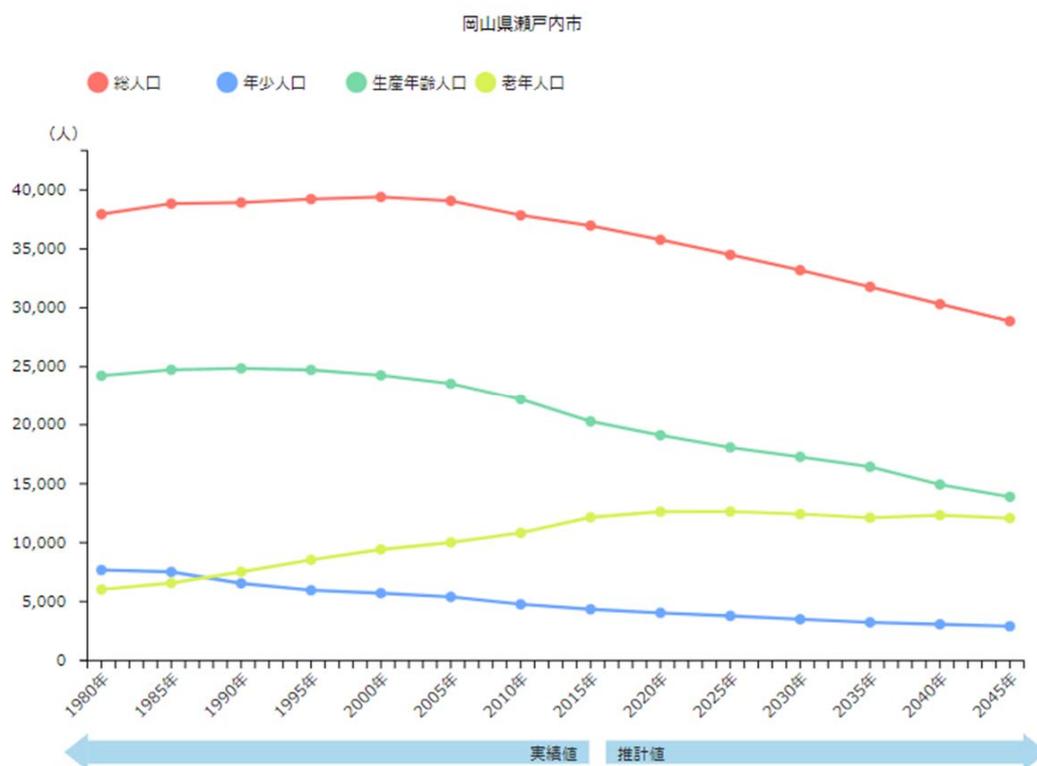
瀬戸内市商工会

1. 地域の人口動態

■人口は緩やかに減少する見込みです。2010年以降は一貫して社会増の状況であり、過去も同様の傾向が強いことから、転入が多い特徴があります。特に30歳以降は転入傾向が顕著であり、生活する場所としての人気が高いことが推察されます。

(1) 人口推移・推計

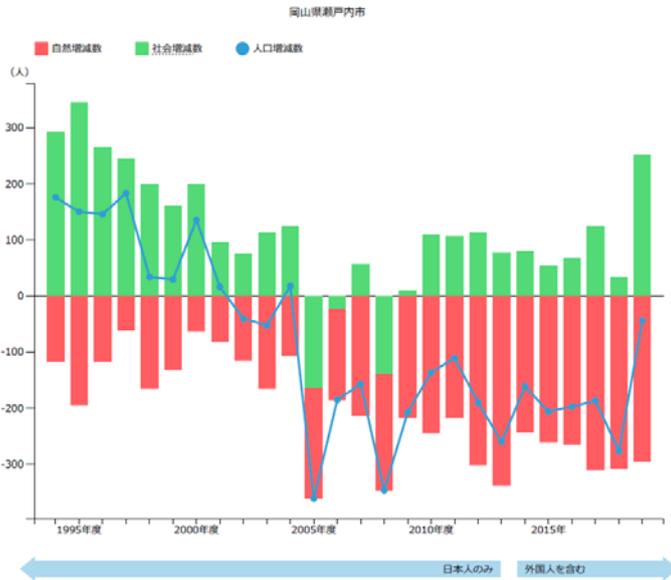
2000年頃をピークに減少、2045年には約3万人まで減少する恐れがあります。



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 人口動態・増減

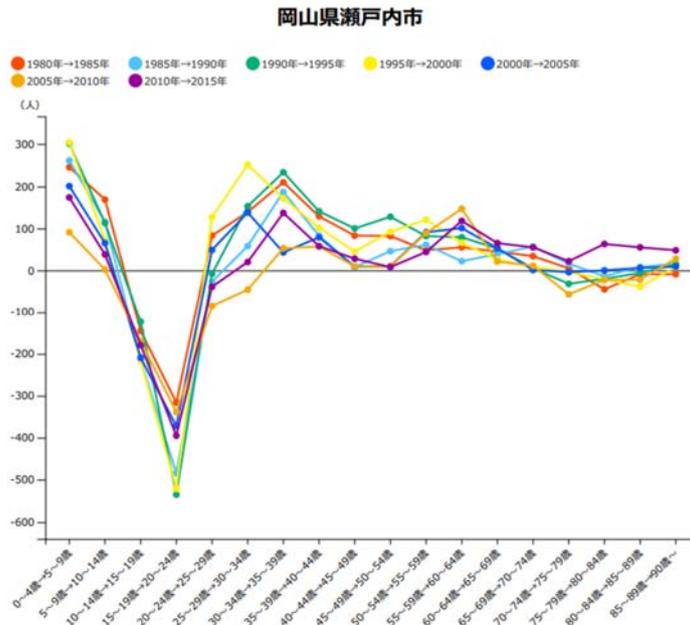
一時期自然・社会動態ともにマイナスの状況にありましたが、近年では社会動態の増加状況に戻り、人口減少の抑制に一定の効果を示しています。



【出典】都道府県：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」

(3) 年代別人口増減

若年層では転出傾向にありますが、30歳以降は転入している状況にあります。



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

2. 地域の経済動向

■企業数では卸売業・小売業、製造業、建設業が多いことは他の地域と変わりはありませんが、特徴的な産業構造は雇用や売上・付加価値に占める製造業の存在感の圧倒的な高さです。労働生産性においても同様で、他の産業では宿泊業・飲食サービス業、医療福祉も総じて高水準となっています。

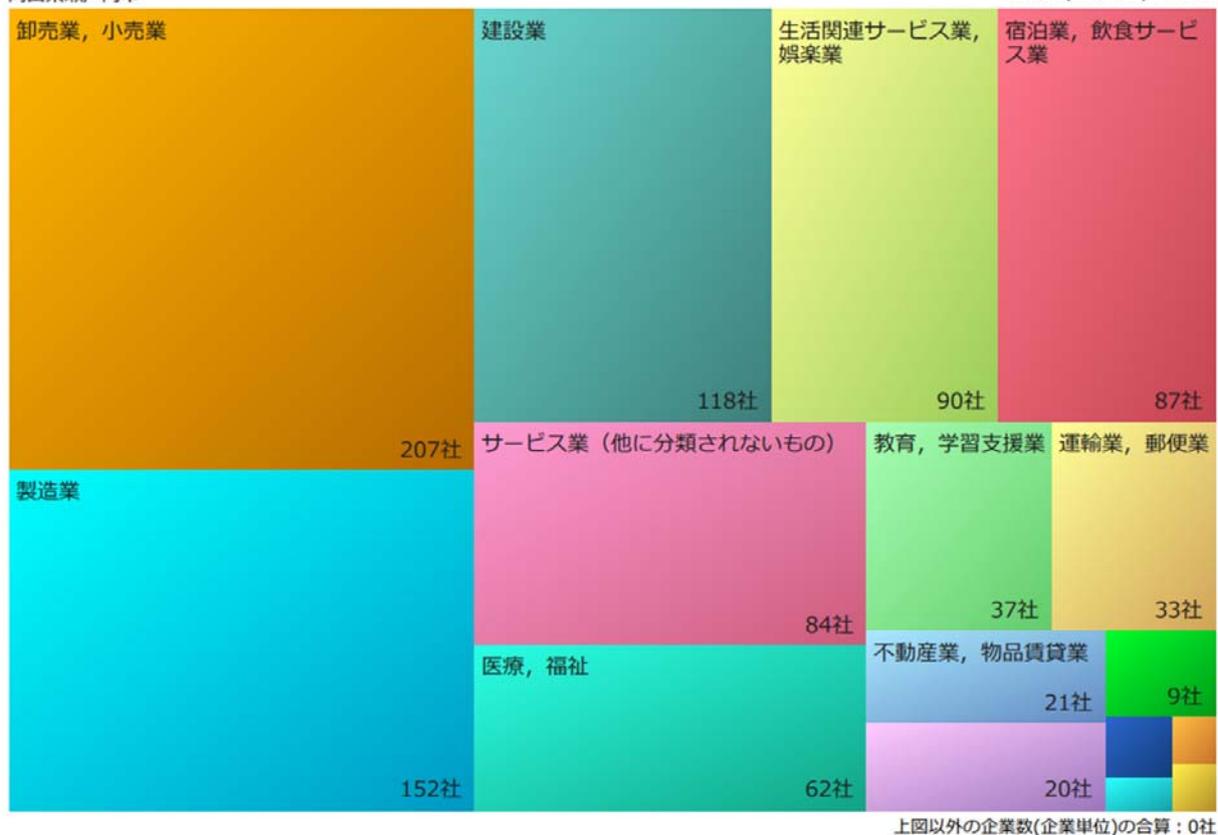
(1) 企業数（大分類）

卸売業・小売業が最も多く、次いで製造業、建設業となっています。

2016年 企業数(企業単位) 大分類

岡山県瀬戸内市

企業数(企業単位)：929社



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(2) 企業数 (中分類)

衛生関連が最も多く、次いで総合建設業、飲食料品小売業となっています。

2016年 企業数(企業単位) 中分類

岡山県瀬戸内市

企業数(企業単位) : 929社



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

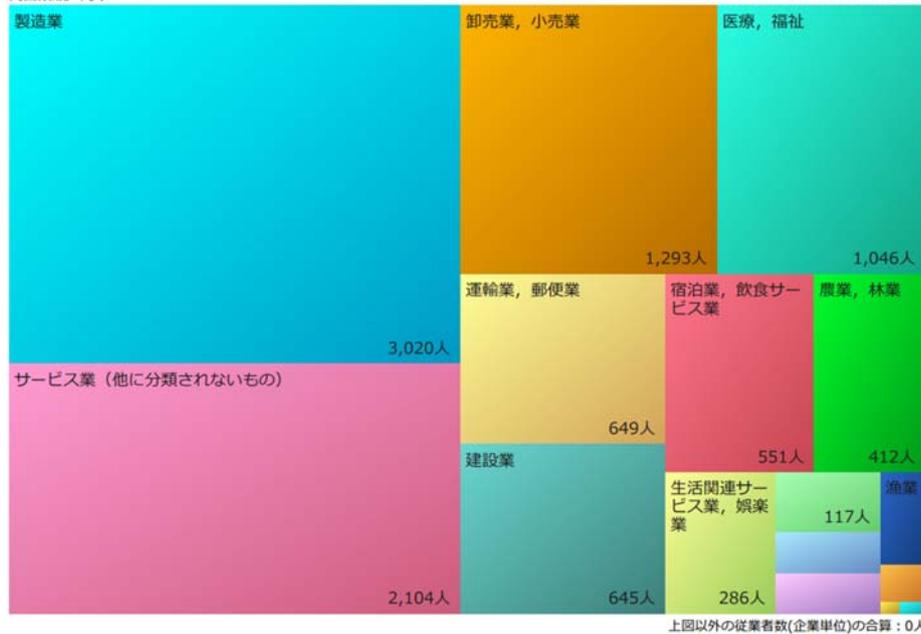
(3) 従業員数 (大分類)

製造業が最も多く、次いでサービス業、小売業となっています。

2016年 従業員数(企業単位) 大分類

岡山県瀬戸内市

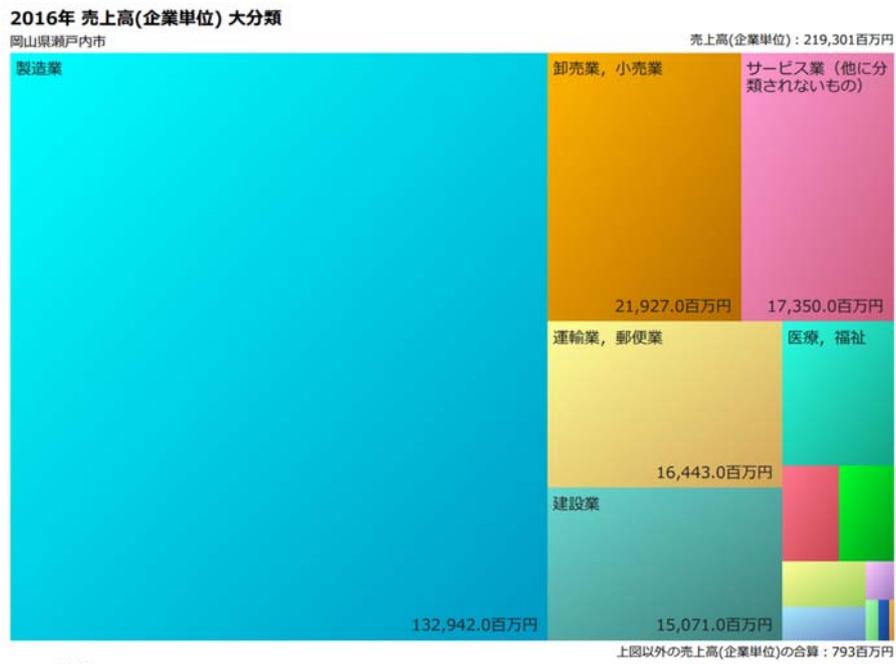
従業員数(企業単位) : 10,394人



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(4) 売上高 (大分類)

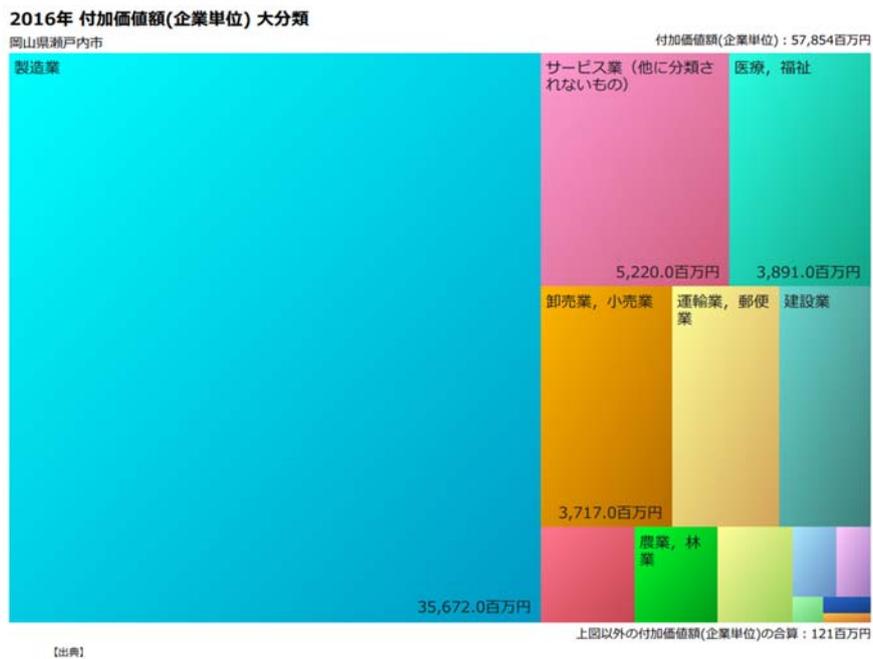
製造業が最も多く、次いで卸売業・小売業、サービス業となっています。



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(5) 付加価値額 (大分類)

製造業が最も多く、次いでサービス業、医療・福祉となっています。



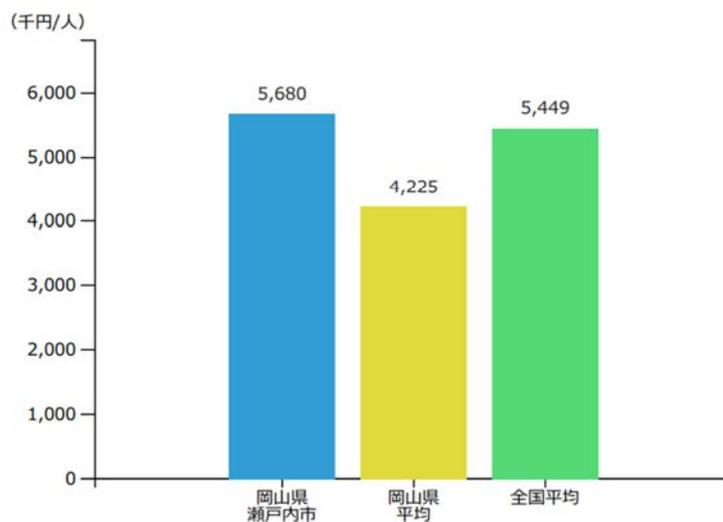
【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(6) 労働生産性

瀬戸内市全体では岡山県平均より高く、特に製造業が突出して高く、飲食業や医療福祉も比較的高水準にあります。

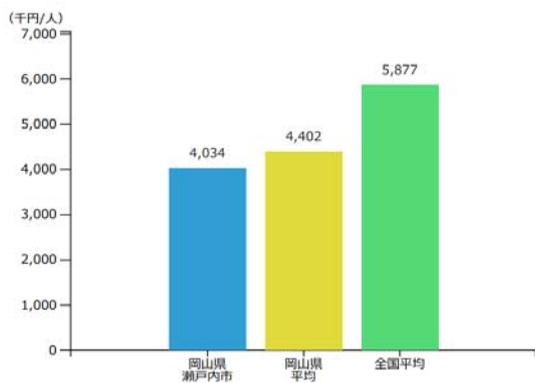
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：すべての大分類 > すべての中分類



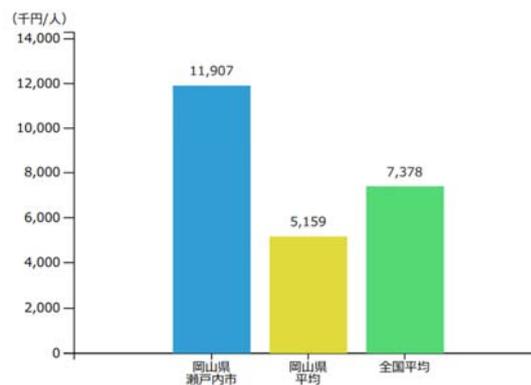
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：建設業 > すべての中分類



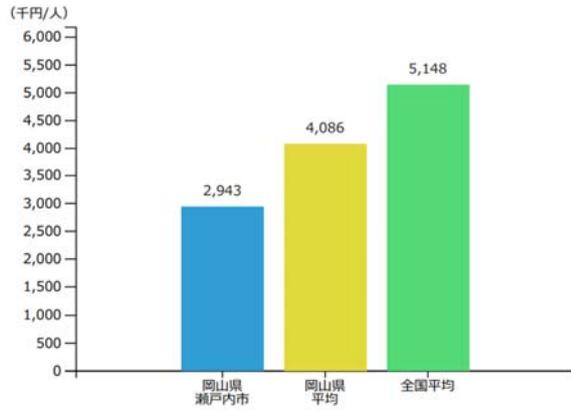
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：製造業 > すべての中分類



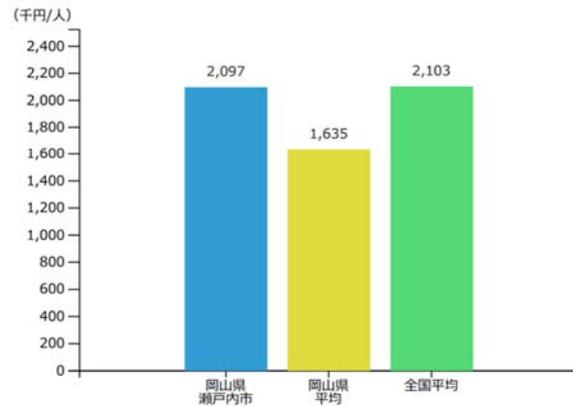
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：卸売業，小売業 > すべての中分類



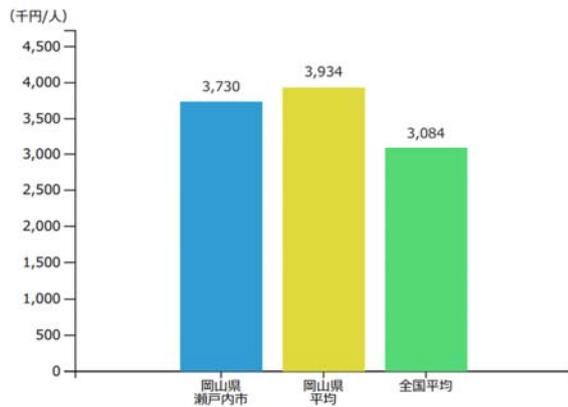
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：宿泊業，飲食サービス業 > すべての中分類



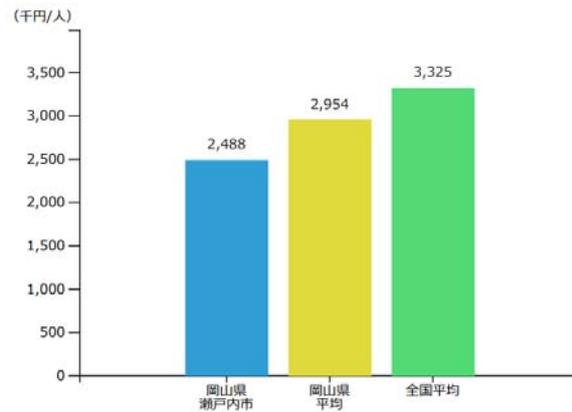
労働生産性（企業単位） 2016年

産業：医療，福祉 > すべての中分類



労働生産性（企業単位） 2016年

産業：サービス業（他に分類されないもの） > すべての中分類



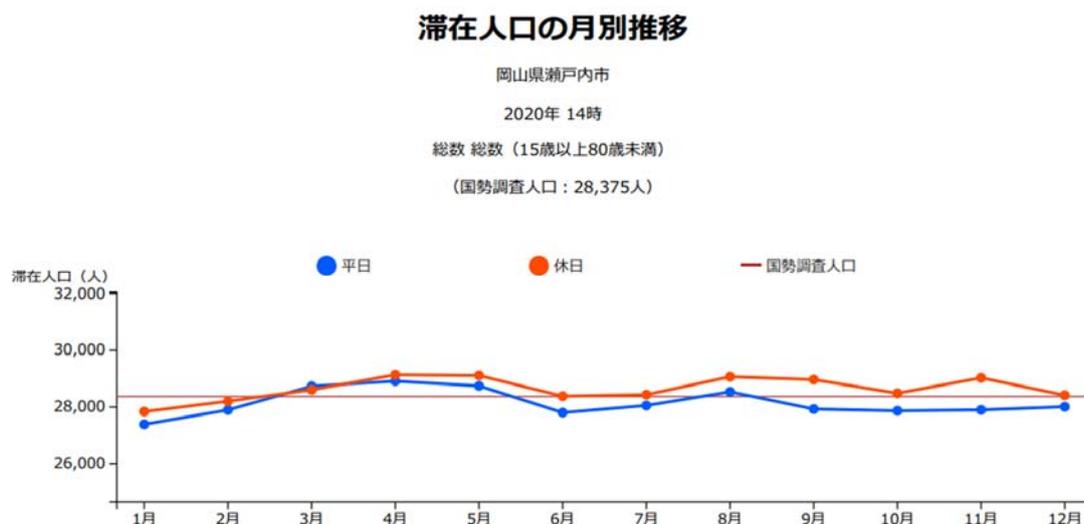
【出典】総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

3. 地域の人流動向

■年間を通じて大きな人口移動はなく、安定した商圏人口を有しています。宿泊客数はコロナ禍前から大きく減少傾向であり、コロナ禍では同一県内の宿泊者数が増加しています。

(1) 滞在人口の月別推移

おおむね年間を通じて国勢調査人口と同等の滞在人口となっています。

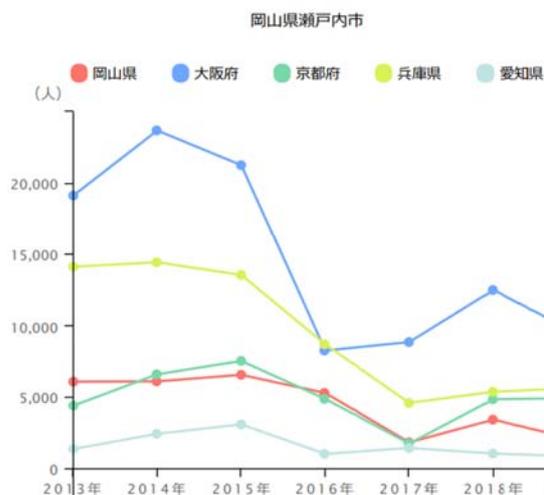


【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」総務省「平成27年国勢調査」

(2) 宿泊客数

岡山県内の宿泊者が最も多く、次いで大阪府、京都府となっています。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移



【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

4. 新型コロナウイルス感染症による影響の把握・分析（県南東部）

■新型コロナウイルス感染症の影響により県南東部の宿泊者数は激減を続けています。飲食店についても同様に厳しい状況にあります。

岡山県の宿泊者数 - 宿泊者の分類の2019年同月の推移

2020年1月1日 - 2021年10月31日

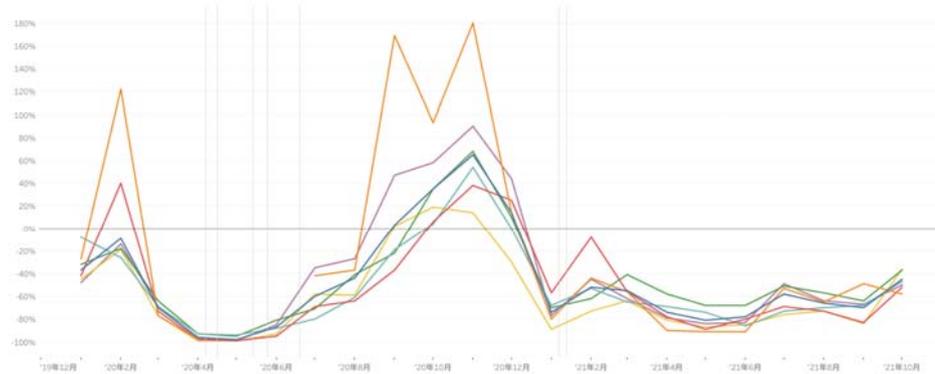
エリア

県南東部

宿泊者の分類：

■ 全ての宿泊者の分類 ■ 女性グループ ■ 一人 ■ 夫婦、カップル(男女二人含む)

■ 子ども連れ(子ども1名未満) ■ 男性グループ ■ 男女グループ(3歳以上子ども含む家族)



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

出典：観光情報プラットフォーム推進協議会（事務局：日本観光振興協会）

岡山県の飲食店情報の閲覧数 - ジャンルごとの2019年同週別の推移

2019年12月30日 - 2021年11月28日

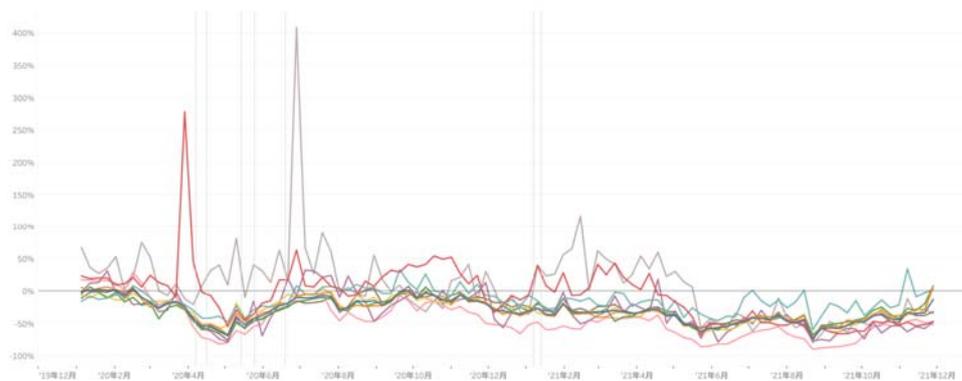
エリア

県南東部

飲食店のジャンル

■ すべて ■ アジア・エスニック ■ 洋食・西洋料理 ■ 焼料理 ■ カフェ・スイーツ

■ 和食 ■ 中華 ■ 肉料理 ■ 居酒屋・バー ■ ファミレス・ファストフード



V-RESAS <https://v-resas.go.jp>

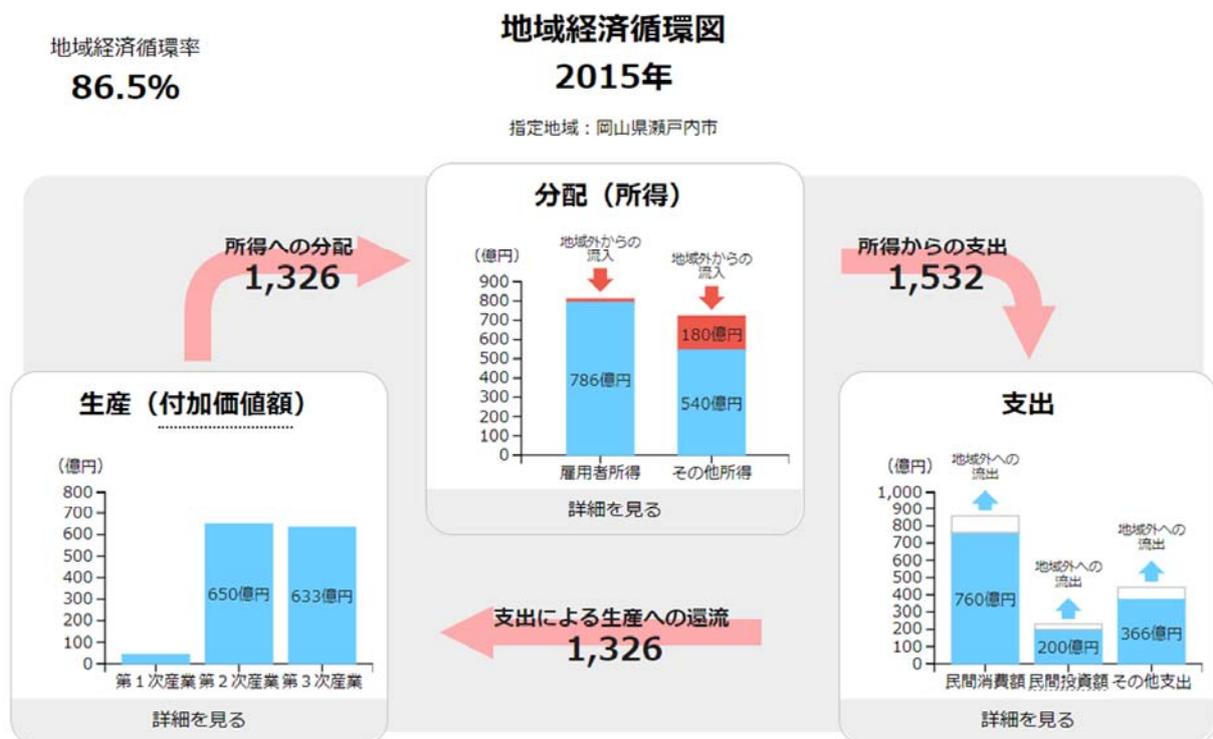
出典：Retty株式会社 Food Data Platformより提供

5. 瀬戸内市における経営支援の方向性

(1) 瀬戸内市商工会管内の経済的特徴

瀬戸内市は中長期的な人口減少が予測されるものの、その減少幅は限定的であり、人口の社会増の状況にある総じて安定した人口規模を有しています。このことから生活しやすく、住みやすい街であるといえます。

ただし、産業全体では製造業への雇用・売上・付加価値依存度が高く、宿泊・飲食サービスや医療福祉等の存在感はあるものの、他の産業の成長は限定的な状況です。その結果として、地域経済循環率は86.5%と地域外に資金が流出している状況にあります。近隣市と比べると赤磐市よりは高水準であるものの、備前市に比べると流出の度合いをうかがい知ることが出来ます。



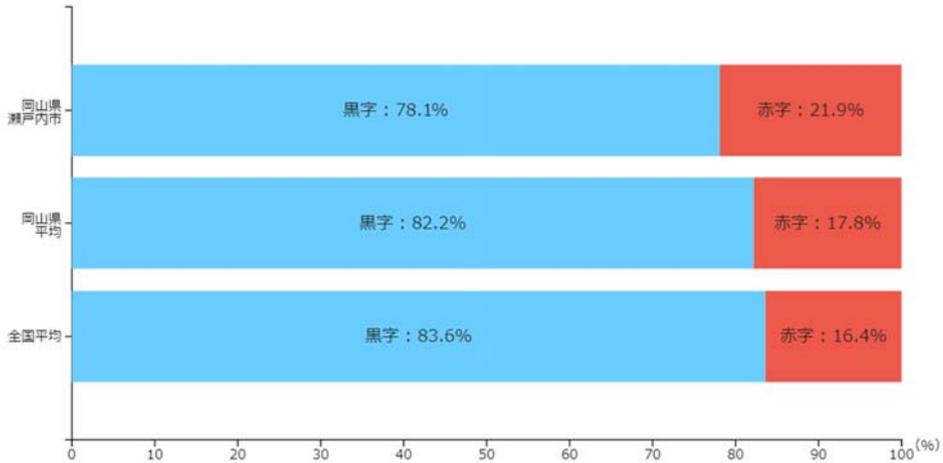
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

(2) 瀬戸内市企業の経営状況・創業状況

瀬戸内市企業の経営状況を概観すると、黒字企業の割合が全国平均・岡山県平均を下回っており、創業比率も同様です。地域循環率の状況も踏まえると、地域密着型の中小・小規模企業の発展・育成に向けた取り組みの充実の必要性が浮き彫りになっています。

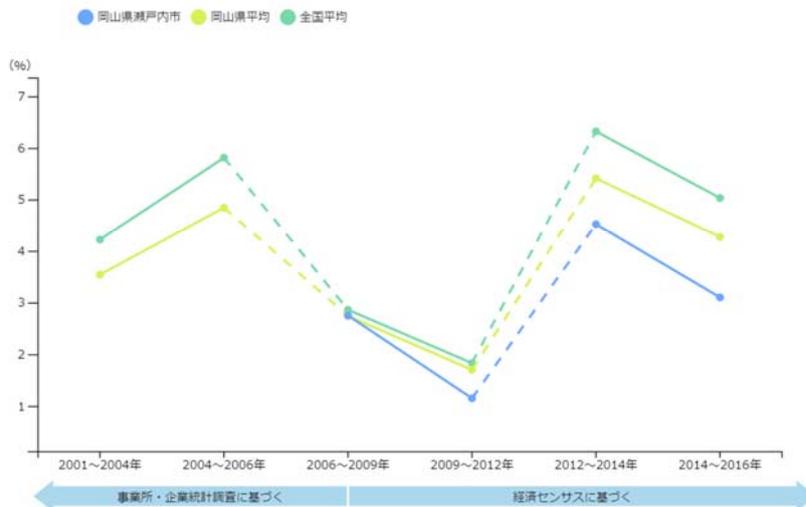
黒字赤字企業比率 2016年

産業：すべての大分類 > すべての中分類



【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

創業比率



【出典】総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサスー基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

【注記】

「平成 21 年経済センサス基礎調査」及び「平成 24 年経済センサス活動調査」では、新設事業所の定義が異なるため、「2006-2009 年」及び「2009-2012 年」の創業比率は、前後の数字と単純に比較できない。